

ほうさい教室にさんかして

有終西小 四年 高畑 莉子

「大雨のとくべつけいほうが発表されました。九州地方で土砂くずれや川のはんらんが発生しました。これは、今年の夏に起きたさいがいた。なくなつた人や行方不明の人もいた。わたしはこのニュースを見て、こわいと思つた。いつもちがつて茶色くにごつた水が大量におしよせ、家がおし流されるのがおそろしいと思つた。そこにすんでいる人達を思うとむねがいたんだ。

それといっしょに、わたしの住む町でも、同じようなことがあつたらと考へた。近くを流れる赤根川がはんらんしたら大へんだなと思つた。雨がたくさんふると、川があふれそうになつて、ヒヤヒヤしたことが何回かある。そこで、夏休みに行われたほうさい教室に家族でさんかした。

ほうさい教室では、カレー作りやパーティション作り、かんいベッド作りをした。カレ

1作りでは、使う水をへらすために、お米を
こぐ回数をへらした。使う火がかきられてい
るので、野菜を細かく切って早く火が通るよ
うにした。パーティションとかんいベッドは
ひなん所に用意されていて、どのように使う
かを教わった。実さいにさいがいおきたと
き、ほうさい教室で教わったことをいかして
いきたいなと思った。

次に、わたしは住む福井県の雨のひかいに
ついて調べてみた。二〇〇四年に、福井県で
大きな雨のひかいがあつたことが分かつた。
なくなつた人は四人。ふしう者は十九人
建物のひかいても多かつた。旧美山野のひか
が大きく、JR越美北線は、橋げたが五本流
れてしまい、しばらくバスでのりん時運
行だつたそう。わたしのお母さんやお父さん
も大
学に通うのに、越美北線を使つていたので大
へんだつたと言つていた。

この大雨のときの話をあちやんに聞いて
てみた。わたしたちのすんでいる地いきも、

赤根川がはんらん水位をこえたので、ひなん命れいが出たそうだ。元有終会館、現在の結とぴあの体育館にひなんしたそうだ。朝方、近所の人と声をかけ合って、ひなんをしたそう。ひなん先は、おとしよりも多く、不安そうにしている人もたくさんいた。かこいなごはなく、しき物だけが用意されていた。わたしかすんでいるところは、ひがいがないことがかくにんされたので、一時間ぐらいで帰ってこられたそう。

今度は、お母さんにそのときの話聞いてみた。お母さんは学校から、ボランティアにさんかした。一乗谷にある朝くら氏いせきの土砂をとりのぞく作業だ。お母さんがついたとき、元のじょうたいを知らなかった。いせきがうま、ていることを知っておどろいた。暑い時期だ、たので、作業もたいへんだ、たと言、ていた。

この話を聞いて、わたしの身近でもおこったことなので、日ごろからほうさいのことを

考えたり、話し合ったりすることが大切だと思ったり。おはあちゃんかひなんしたとき、ほとんと何もたずにひなんしたと言っていたので、まずはひなんグッズのじゃんびから家族でしてみようと思う。